

2学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

2学年通信 No.38 通算 102

7月13日発行の学年通信は、No.37
通算 101 の誤りです。ご訂正下さい

2016.7.14 (木) 発行

米沢興譲館サイエンスフォーラム in 山大 を見学して

横山

7月12日(火)山形大学工学部において上記のフォーラムが行われました。一般の方にも開放しましたので、保護者の皆さんに事前にお知らせすればよかったなと反省しました。さて、私が興味を持ったのは、実は右ページのポスターです。すごく素敵なデザインだと思ったのです。学年通信を作るとき、一番気にしているのは「紙面のバランス」です。しかし、私のバランスは、実は「実線による左右対称」なんだな、と最近気がつきました。思えば、子供の頃「ダイヤブロック」で作るロボットも建物も、マジンガーZであり平等院鳳凰堂になってしまうのです。ですから、このポスターのように「文字も縦横・日英混在」とか「写真を薄く淡くレイアウト」何て絶対できないというか、ややもすると許せないのです。お聞きすると、理数科長の熊坂克(まさる)先生デザインでした。こういうのを「才能」と呼ぶのでしょうか。ぜひ、米興HPにてご覧下さい。素敵です!

さて、いつもは正門から入る工学部ですが、今日は気分を変えて「裏口」から入場してみました。それは、駐車場側に「サークルの部室棟」があるからです。自動車部(通称車部)の小屋は昔から変わりません。あの頃、ニトロを積んで走っていたRX7がいたことを思い出します。軽音の部屋ではガンガン騒音(音楽ですね)が鳴っています。アマチュア無線部室に灯がついています。コンテストのときはJA7YABとよく被りました。こっちも迷惑をかけていたのでお互い様ですけど。東北大学がJA7YAAなので、山大工学部が東北で2番目に開設された社団局なのです。歴史ありますね。ついでですが、興譲館はJA7YEJというコールサインで、川西町にあった新山中はJA7YENだったかな? 中学校に社団局があるのは当時も珍しかったようです。私は免許更新しないで失効したけれどJE7EGFでした。中学で一発試験受けて開局したのですが、ローターが無いので「屋根に上って手で八木アンテナを廻した」ものです。八木アンテナとは、ご家庭にあるTVのアンテナのあれです。東北大学の八木先生と宇田先生が発明したらしいです。マニア色が濃くなったので、この辺で無線の話は終り。いつかじっくり語ろう。さて、サークル棟の外では、路上パフォーマーが楽器を演奏したりコマを廻したりしています。学食に行くときと女性と外国人が多くなったと実感します。美味しくて安いですね学食。高校生や一般の方も自由に食べることができるので、今度ご家族でいかがですか? いつも思いますが、大学っていいですね。どこの大学もイイ。この自由な雰囲気はイイ。やはり、一生に一度は体験したいものです。ですから、米興生は幸せです。高校で勉強ができて部活動もできる。さらには「大学へも行ける!」のです。しかも、しっかり学習すれば「自分の行きたい大学に行ける!」のです。大学に入るために学ぶ、それはその通りなのですが「学びが手段や義務だけ」だとすると、それはすごく寂しいことです。サイエンスフォーラムの閉会式で、工学部のSathish K. Sukumaran 准教授がこう話されました。

「普段学ぶときにも、研究するように学んでみて下さい」

どのような意味なのかは皆さん自身が考えて下さい。わからなくても、しつこくずっと考えて下さい。「答が無い」や「結果はわからない」が【研究】です。研究者として学ぶ。やってみて! 終

COLLABORATIVE STUDY PROGRAM

山形大学の留学生と
米沢興譲館高校生による
英語での研究発表会

米沢興譲館サイエンス フォーラム in 山大

YONEZAWAKOJOKAN SCIENCE FORUM IN YAMADAI

開催日 平成28年7月12日(火)
15:00~16:50

場所 山形大学工学部11号館有機材料システムフロンティアセンター

内容についてたった2行かよ！と、お叱りを受けそうなので？ 少しだけ紹介します。

第1部：3年理数科とCSSによるポスターセッション。しかも「英語」で！



第2部：山大工学部「留学生」による英語の研究紹介



<結びに>

会場となった「工学部11号館有機材料システムフロンティアセンター」は新しくできた建物でその中を見るだけでも価値あります。有機ELの城戸先生、あの松田先生のオフィスもあるそうです。ちなみに、あの「小池先生（英語・卓球部）」もお出でになっていました。開会式、閉会式の司会 熱海君はナイス！でした。上手に皆を笑わせていましたね。理数科の保護者の方、興味ある方はぜひ来年見学に来て下さい。我が子が「英語で質疑応答する」のは必見ですね！ 終